



学校だより

横浜市立秋葉中学校

電話 811-6773 FAX 813-9438

令和7年6月4日発行



看 脚 下

校長 柿崎 順子

先月は、20日に1年生が日帰り足柄へ、21日に2年生が1泊2日で山梨へ、そして3年生が22日から2泊3日で広島・京都へ行ってきました。

私は3年生と一緒に修学旅行に行ってきました。二日目の朝、広島の平和記念公園内の「原爆の子の像」の前で、実行委員主導で平和集会が行われ、各クラス一つ担当した、6つの内容が宣言されました。クラスごとに声をそろえ、学年全員でも声をそろえての宣言は、とても立派でした。

それ以外にも、京都⇄広島間の新幹線は団体専用ではなく、一般の方も同乗されていたということで、トランプやUNOをするにもヒソヒソ声でうるさくならないように配慮していたこと、能楽堂では説明の後、積極的に何人もが質問をし、しかもその内容もレベルが高かったこと、最後の京都駅での集合もすばやく整然と整列が完了したこと等々、感心させられる場面がいくつもありました。

1年生の校外行事には一緒には行かれませんでした。結団式に参加させていただきました。私の挨拶の後、無茶ぶりで校歌を歌ってもらったのですが、とても元気に大きな声で歌ってくれました。足柄での実際の活動中もとても元気に様々な課題をクリアしていったそうです。

2年生の自然教室には副校長が同行しました。バスの中ではレク係が準備したレクが行われ、どのクラスも大いに盛り上がったようです。富岳風穴を見学した後、青木ヶ原樹海ハイキング、緑の休暇村に到着後は、カレー作りに奮闘し、出来栄は上々だったとのこと。その後キャンプファイヤーが行われ、実行委員主催のレクで2学年の絆はさらに深まったようです。二日目はいやしの里根場で体験学習と班ごとに散策をし、その後、緑の休暇村に戻りほうとう作りを行いました。2年生にとって自然と仲間の存在を深く感じた二日間だったようです。

さて、タイトルの「看脚下」は、修学旅行で3組が訪れた妙心寺の玄関に示されていた言葉です。ちょうどその前日の夜、代表者会議に集まった生徒のスリッパが整頓されていなかったのを見て、「脚下照顧」という言葉を紹介したのですが、同じような意味の言葉です。

「看脚下」も「脚下照顧」も、その字のとおり「足下を見なさい」「履物をそろえなさい」という意味でもあるのですが、妙心寺のHPには「自分が脱ぎ捨てた履物を見て、これで良いのか悪いのか、はたまた、今の自分の生活を振り返って、『これで良いのか、悪いのか』と自分で考え、全身で気付き、そして自らで【答え】を見つけ出す教え」と書かれていました。

5月の校外行事、どの学年も大成功だったかと思います。だからこそ、特別な行事だけでなく、日々の当たり前の生活の中で、当たり前のことをしっかりできるようになってほしい。そのことは簡単なようで難しく、実はとても大切なことです。ぜひ、皆さんに意識してほしいと思っています。